

国際部報告

2006WFAS鍼灸国際シンポジウムバリ大会・執行理事会報告
- WFASの今後の方針について -

若山 育郎

全日本鍼灸学会 国際部長



要 旨

第6次執行理事会第3回委員会(写真)は2006年11月24日(金)午後3時からシンポジウム会場である Sanur paradise Plaza Hotel で開催された。出席者は、議長である WFAS 会長 Deng Liangyue (鄧良月・中国) の他、David P.J. Hung (洪伯榮・米国) 前 WFAS 会長を含む副会長7名(うち代理1名)、執行理事6名(うち代理1名)などであった。欠席理事は8名であった。執行理事会の日本側メンバーは黒須幸男(WFAS副会長、全日本鍼灸学会国際部顧問)、津谷喜一郎(WFAS執行理事、全日本鍼灸学会参与・前国際部長)であるが、両氏とも都合により欠席のため、それぞれご本人からの委嘱状をいただき、国際部から若山と高澤直美が代理メンバーとして、東郷俊宏がオブザーバーとして出席した。

中国国家中医薬管理局の副局長 Li DaNing (李大寧) の挨拶の後、WFAS 事務局長 Shen ZhiXiang (沈志祥) が議長となり、中国語、英語で議事が開始された。議案および資料は、当日その場で配布された。まず、当日の議題を以下に列記し、その後各議案につい

て説明する。

1. 2007～2009年度においてWHOとWFASが協調していくための計画草案
2. WFAS事務局からの提案
 - 2-1 WFAS加盟学会の新規開拓
 - 2-2 各国加盟学会学術シンポジウムに対する支援
 - 2-3 世界鍼灸雑誌World Journal of Acupuncture-Moxibustionの活性化
 - 2-4 各種委員会事務局の設置
3. WFAS事務局から4つの新委員会設置についての提案

科学技術委員会 (Science and Technology Committee) 大学間協調委員会 (University Cooperation Committee) 国際ボランティア委員会 (International Volunteer Working Committee) 鍼灸と中医薬の国際標準化基金管理委員会 (Management Committee of Acupuncture and Traditional Chinese Medicinal International Standardization Foundation)
4. WFAS入会資格についての検討
5. 各種委員会の委員候補者についての検討
6. WFASウェブサイトおよびインターネット・ツールボックスに関する報告
7. 次年度のWFAS20周年記念北京大会についての報告

キーワード：WFAS、執行理事会、WHO、バリ大会

1. 2007～2009年度においてWFASがWHOと協調していくための計画案

本議案では、WFASの今後の活動の大まかな計画が提案された。特に強調されていたのが、NGO (Nongovernmental Organization) としてのWFASと議題のタイトルにもあるようにWHOとの連携である。WHOと公式関係 (official relation) にあるWFASとしては、WHOの活動に協力しながら、鍼灸に関する法整備、標準化、教育、研究に寄与していく旨の報告があった。具体的な提案としては、以下の如くである。

- 1) WHOと協調しながら各国における鍼灸の法整備を徐々に進める。特に、鍼灸を医療システムに組み込み、健康保険でカバーされ、鍼灸が真の国際的な医学・医療になるように努める。
- 2) WHOと協調しながら、現在進めている経穴部位の標準化、鍼灸技術の標準化、鍼灸の臨床ガイドライン、鍼灸治療効果の評価方法等の確立を進める。
- 3) WHOによって刊行された鍼灸関連書籍のメ

ンバー国を含む世界各国への普及、並びに各国における資格試験、鍼灸治療評価方法を調整してとりまとめる。

- 4) 世界各国の鍼灸関係の大学、研究所間の連絡を密にして、国際的な教育・研究レベルの標準化、活性化を図る。
- 5) WHOの伝統医学、鍼灸医学に関する書籍の翻訳をする。さらに、WFASウェブサイト伝統医学に関するWHOの施策を紹介する欄をつくとともに、伝統医学に関するインターネット上のページを充実させ (インターネット・ツールボックスの開設) 多言語に対応できるようにする。
- 6) WHO本部および地域事務所と連携しながら、WFASとWHOの共通した課題について議論を進め、まとめていく。

以上のほか、今後開催予定のWFAS関連国際学会においてWHOとの連携を図る施策についても提案があった。即ち、

- 1) 2007年10月に北京で開催予定のWFAS設立20周年記念国際鍼灸学術大会 (シンポジウム) をWHOと共催する。

- 2) 2008年韓国で開催予定の第7回世界鍼灸学術大会(7th World Congress of Acupuncture)をWHOと共催する。
- 3) その他WFASとWHO双方が関心を持っているテーマに関する国際シンポジウムを共催する。
- 4) 2009年WFAS国際シンポジウムにWHOの役員を招待する。
- 5) 世界各国の伝統医学に関する政策や条例に関する情報収集や交換を促す。また、そうした交換の場を設定する。
- 6) 今後3年にわたり、毎年5月に開催される世界保健総会(World Health Assembly: WHA)ないし各WHO地域委員会(Regional Committee Meeting)に参加し、鍼灸発展に関する施策を練る。

2. WFAS事務局からの4提案

2-1 WFAS加盟学会の新規開拓

WFAS設立19年を経て、加盟学会は当初57であったが、現在96(47カ国)となっている。加盟学会を増やしていくことはもちろん今後の重要な課題であるが、特に発展途上国に情報を発信していくことが強調された。本第6次委員会では新規の入会を促進するためWFAS入会申請規則が改定されたが、近年新規入会が少なく、鍼灸界やWFASの発展に追いつかないのが現状であるという報告があり、加盟学会新規開拓のための以下のような提案がなされた。

- 1) WFASの加盟学会がない国からの加盟を促進する。
- 2) WFAS加盟学会のある国からも新規の加盟を求める。
- 3) 現行のWFAS関連分野以外の分野からの加盟を求める。特に科学研究領域、医学領域、教育領域、情報技術領域など。
- 4) WFAS執行理事は新規加入申請に対して反対する権利を有するが、反対に際しては相応の論拠を示し、申請学会に対して反論の機会を与えた上で、さらに議論を進めねばならない。
- 5) 各国WFAS執行理事は次回大会までに少なくとも2つの鍼灸学会・団体の加盟推薦をせ

ねばならない。

これらの提案のうち、特に5)については、こうした方法で増員を図るより、加盟学会の質を維持するほうがより重要であるとの意見が出された。質の低下をきたせば加盟学会はむしろWFASを離れていこうとの意見である。これについて、会長、事務局長から、WFAS加盟学会は現在96あるが、正常に活動しているのは約半数であるため加盟学会に関する規約を改正し大学や学校単位で入会できるようにしたということ、また、加盟国の分布が偏っており、加盟国が少ない地域、例えばアラビア、中東、アフリカなどの地域における活動を活性化していかなければならない旨の返答があった。結局のところ、この案については、さらに検討が必要であるとの結論となった。

また、この議論の中で以下のような意見も出された。

- i) WFASの発展のためには、加盟学会の質や適性を審査するシステムが必要である。
- ii) 各国それぞれ鍼灸の発達レベルが異なるため、新規メンバーの開拓方法も異なって当然ではないか。

以上の意見を踏まえ、上記5)には「もし、しるべき資格のある学会・団体の心当たりがあれば」という条件が付け加えられた。

2-2 各国加盟学会主催の学術シンポジウムに対する支援

例年WFASと各国加盟学会の共催で開催している国際鍼灸シンポジウム以外で、加盟学会が主催する学会を支援する旨が提案された。

2-3 世界鍼灸雑誌(World Journal of Acupuncture-Moxibustion)の活性化

世界鍼灸雑誌は1991年にWFASにより刊行された英文誌であるが、近年の鍼灸医学の発展に相応したものではなくって来つつあり、鍼灸に関する学術研究、鍼灸技術の交換の目的を果たせない状況になっていることが挙げられ、事務局から国際編集委員会の設置が提案された。

2 - 4 委員会事務局の設置

1992年以来各種委員会が設置されたが、日常業務を担当する事務局がないため、多大な負担が委員会にかかっていることが報告され、各種委員会に事務局を設置することが提案された。議論は、主に2 - 1 - 5) について集中したが、以上について承認された。

3 . WFAS 事務局から 4 つの新委員会設置についての提案

科学技術委員会 (Science and Technology Committee)、大学間協調委員会 (University Cooperation Committee)、国際ボランティア委員会 (International Volunteer Working Committee)、鍼灸中医薬国際標準化基金管理委員会 (Management Committee of Acupuncture and Traditional Chinese Medicinal International Standardization foundation) について、設置を必要とする理由、委員会の任務、委員となるための要件、委員の選抜方法、活動手順が提案された。各新規委員会の構成および人数は以下の通りである。

	委員長	副委員長	委員
科学技術委員会	1名	5-10名	20-50名
大学間協調委員会	1名	5-10名	20-50名
国際ボランティア委員会	1名	総務担当1 その他数名	数名
鍼灸中医薬国際標準化基金管理委員会	1名	総務担当1 その他数	数名

以上の事務局案に対して、University Cooperation Committee を Higher education Cooperation Committee とし、上記4委員会については、WFAS スタッフ、執行理事による検討を経ながら、必要なものからゆっくりと進めていくほうが良いとの意見が出された。また、International Volunteer Working Committee を International Volunteer Team とする案も出されたが、4委員会の設立については承認された。

参考までに、現在設置されている各種委員会を以下に挙げておく。

- 1) 顧問委員会 (Advisory Committee)
- 2) 専門家委員会 (Specialist Committee)
- 3) 国際鍼灸実力試験委員会 (Working

Committee of International Acupuncture Proficiency Examination)

- 4) 学術委員会 (Academic Working Committee)
- 5) 慈善委員会 (Charitable Working Committee)
- 6) 標準化委員会 (Standardization Working Committee)
- 7) 資格審査委員会 (Qualification Examination Working Committee)
- 8) 外交委員会 (Foreign Affair Working Committee)
- 9) 立法委員会 (Legislation Working Committee)
- 10) 教育委員会 (Education Working Committee)
- 11) 倫理委員会 (Code of Ethics Working Committee)
- 12) 財務委員会 (Financial Supervision Working Committee)

また、これら委員会において日本から名前を連ねているのは、以下の各氏である。

中嶋 宏 (顧問委員会終身名誉顧問)

黒須幸男 (倫理委員会委員長、国際鍼灸実力試験委員会副委員長)

津谷喜一郎 (学術委員会副委員長、国際鍼灸実力試験委員会委員)

形井秀一 (鍼灸標準化委員会副委員長)

篠原昭二 (鍼灸標準化委員会委員)

小林健二 (鍼灸標準化委員会委員)

おそらく日本のほとんどの方が、これらの委員になっていることを十分に認識していないと思われ、今後のWFASとの対応の課題のひとつである。

4 . WFAS 新規入会についての検討

新規入会の申請があった14学会・団体について検討がなされた。申請があったのは、スロベニア (2学会)、ブラジル (4団体)、スペイン (1学会、1団体)、イタリア、メキシコ、ベルギー、韓国、シンガポール、ラトビアからであった。WFASの定款によれば、加盟学会 (団体) は、i) 正式に認可された学会、団体であること、) 設立後3年以上であること、) 50人以上の会員があり、そのうち4分の3以上は、鍼灸師、医師、伝統医学医師、鍼灸研究者であること、とある。

これに則って審議された結果、設立後3年を経過していない団体、鍼灸ではなく推拿が中心の団体の入会が却下されたが、9学会の入会が承認された。

ここでは、新規加盟学会に関する審議の方法について、今回のように当日資料が渡され、しかも限られた情報（団体の名称、責任者名、会員数、設立月日、連絡先、申請月日など）しかない状況では入会の可否の判断ができないとの意見があった。

今回申請された学会・団体をみると会員数は4,000人の団体から4人の団体まであり、また、(WFASの方針ではあるのだが)学会と名の付くものから各種学校・研究会まで多種多様であった。WFASの拡大路線を象徴するような申請内容であり、先に意見が出たように加盟学会の質の低下が危惧される内容であった。

5. 各種委員会の委員候補者についての検討

各種委員会の委員候補者名簿が配布され、各代表に必要に応じて更新をするように伝えられた。また、この委員会の承認についてはこの場では議論せず、3カ月以内に委員会メンバーによる投票をおこなうこととなった。

6. WFASウェブサイトに関する報告

液晶プロジェクターでWFAS website (<http://www.wfas.org.cn>) を供覧しながら、その現況について報告がなされた。WFASの最新のニュース、鍼灸医学に関する行事、鍼灸教育、鍼灸の標準化と法整備、事務局ニュース、学術大会の映像などを盛り込んでいくとの説明があった。

特に強調されたのは少なくとも北京大会までには、多言語で閲覧可能なホームページにすることであった。現時点では英文、中文のみであるが、ロシア語、フランス語、スペイン語、ドイツ語などのバージョンについて準備中であること、その他の言語については検討中であることが説明された。また、各加盟学会から情報の提供を受けて充実させていくという旨の説明もあったが、当方としては、それに労力を割くよりは、JSAMの英文ページの充実力を入れ、リンクをお願いし

たほうが良いように思われた。

さらに、先に述べたようにWHOのインターネット・ツールボックスを開設して、鍼灸・伝統医学の振興を図るということが強調された。

7. 次年度のWFAS20周年記念北京大会についての報告

WFAS設立20周年記念国際鍼灸学術大会(北京)のアナウンスがあった。

会期：2007年10月20日(土)~22日(月)

大会テーマ：鍼灸医学のこれまでと今後の展望
(To retrospect the past and look forward to the future of acupuncture and moxibustion)

また、本記念大会に関してDeng WFAS会長より以下の発言があった。

- (1) 鍼灸医学に多大な貢献のあった指導者、専門家、研究者に対する賞を設けたい。
- (2) WFAS20周年記念誌を発刊したい。発刊に当たっては各執行理事にはそれぞれの団体の紹介を用意いただきたい。
- (3) 大会の講演者として相応しい鍼灸医学の専門家、研究者の推薦をお願いする。

最後にDeng WFAS会長から閉会の挨拶があり、以下のような発言で締めくくられた。鍼灸医学をはじめとする伝統医学は、WHOに高く評価されている。また、WHOの支援により各国政府も鍼灸研究に力を注いでいる。鍼灸研究者の努力はそうした支援と相まって、鍼灸医学の発展にますます寄与していこう。北京で再会できることを期待している。

International Conference Report

Report on the Executive Committee meeting of WFAS International Symposium of Acupuncture 2006 (Bali, Indonesia)

WAKAYAMA Ikuro

Director, Department of International Affairs
The Japan Society of Acupuncture and Moxibustion (JSAM)

Abstract

The third session of the sixth Executive Committee (EC) of WFAS was held on 24 November 2006 at Sanur Paradise Hotel in Bali, Indonesia. Fourteen members including Deng Liangyue (President of WFAS), David P.J.Hung (Ex-president of WFAS) were present and eight members were absent. From the Department of International Affairs of JSAM, TAKASAWA Naomi and I attended the meeting on behalf of Japanese EC members, KUROSU Yukio (Vice president of WFAS) and TSUTANI Kiichiro (Counselor of JSAM). TOGO Toshihiro, a member of our department also attended the meeting as an observer.

The meeting started with opening remarks from Li DaNing, vice-Director of SATCM (State Administration of Traditional Chinese Medicine) and the session was chaired by Shen ZhiXiang (Secretary-general of WFAS). In the meeting, the following issues were discussed and approved.

1. A cooperation plan between WHO and WFAS, 2007-2009 was presented.
 2. Four proposals from the WFAS secretary-general were presented.
 - 2-1 Proposal on holding an academic conference
 - 2-2 Proposal on strengthening work of the World Journal of Acupuncture-Moxibustion.
 - 2-3 Proposal on the establishment of committee offices
 - 2-4 Proposal on developing member societies of WFAS.
 3. Another four proposals regarding the establishment of four Committees were also presented by the secretary-general; Science and Technology Committee, University Cooperation Committee, International Volunteer Working Committee, and Management Committee of Acupuncture and Traditional Chinese Medicinal International Standardization Foundation.
 4. Nine new groups were approved for admission to WFAS as member societies.
 5. A new working committee nomination list was introduced and executive committee decided to contact committee members in three months for a vote.
 6. The secretary-general of WFAS reported on the present state of WFAS website (www.wfas.org.cn) and a plan about the WHO internet tool case program on Traditional Medicine.
 7. Li Weiheng, president of the China association of acupuncture-moxibustion, introduced the preparation of the 20th anniversary of WFAS and international acupuncture congress.
- Lastly, President Deng made a closing address to conclude all of the issues on the agenda.

Zen Nippon Shinkyu Gakkai Zasshi (Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion: JJSAM). 2007; 57(1): 47-52.

Key words: WFAS, Executive Committee, WHO, Bali symposium